

ところ会員各位

ところ会 2 月行事案内

平成 28 年度、第 2 回テーマ

【佐原の町並みを巡り・伊能忠敬記念館/旧宅を見学する】

2 月に当初計画をしていました“奥秩父の冬の名勝「三十槌の氷柱(みそつちのつらら)」、宝登山ロウバイ見学(長瀬で食事)”は気候が温暖で氷柱は無理(?)、また蟠梅は早く咲き始めて 2 月中旬では時期が遅いとの情報で、行き先を佐原方面に変更することに決めました。以下に案内をいたします。

記

■日 時：平成 28 年 2 月 19 日(金) 7 時 50 分集合

■集合場所：所沢駅 東口 所沢郵便局前

■見学場所及び時間

所沢駅出発 8:00→所沢 IC→関越道→外環道→新倉 PA(休憩 8:40～8:50)→三郷 JCT→常磐自動車道→(トイレ休憩 SA15 分)
→つくば JCT→圏央道→大栄 JCT→東関東自動車道→佐原香取 IC
→香取神宮(11:20～11:50)→昼食処【亀甲堂】(昼食 12:00～12:40)
→佐原町並み巡りと伊能忠敬記念館/旧宅を見学(ボランティアガイド同行で案内・12:50～14:20)→町内自由行動
→市営駐車場集合(15:00)→佐原香取 IC→東関東自動車道
→湾岸幕張 P A(休憩 16:00～16:15)→首都高→外環道
→新倉 PA(休憩 17:10～17:20)→関越道→所沢 IC
→所沢駅東口(18:00 頃)(解散)

■昼食場所：亀甲堂

■〒287-0017 千葉県香取市香取 1894-5 TEL:0478-57-3131(代表)

■料理：釜飯定食

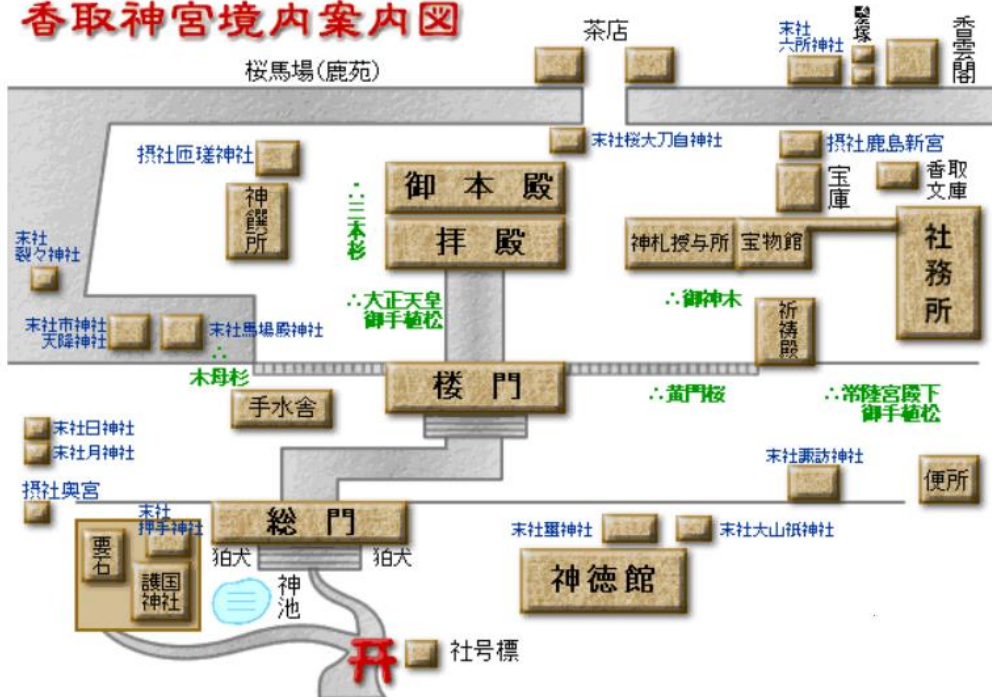
■参加費用：6,500 円(昼食代含む)

■見学場所簡単ガイド

<香取神宮の由緒> ホームページより

鎮座地：千葉県香取市香取 1697

香取神宮境内案内図



御祭神：経津主大神（ふつぬしのおおかみ）＜又の御名伊波比主命（いはひぬしのみこと）＞

御祭神の神話：皆さんは、出雲の国譲りの神話をご存じでしょうか？

香取の御祭神の経津主大神（ふつぬしのおおかみ）は、この神話に出てくる神様なのです。

神話の内容は、はるか昔、天照大神（伊勢神宮・内宮の御祭神）が日本の国を治めようとしたしましたが、荒ぶる神々が争い、乱れていました。

大御神は八百万神に相談すると、天穗日命（あめのほひのみこと）がすぐれた神であるということで遣わされましたが、出雲国の大国主神（おおくにぬしのかみ）に従ってしまったので、次に天稚彦（あめのわかひこ）が遣わされました。天稚彦もまた忠誠の心なく、顯國玉神（うつしくにたまのかみ）の娘の下照姫（したてるひめ）を妻として、自ずから国を乗っ取ろうとしましたが、亡くなってしまいました。

このようなことが二度つづいたので、大御神が八百万神に慎重に相談させると、神々が口を揃えて、経津主神こそふさわしいと申し上げました。そこへ武甕槌大神（たけみかづちのかみ・鹿島神宮の御祭神）が申し出られたので、共に出雲に派遣されることになりました。

経津主、武甕槌の二神は出雲国の稲佐の小汀（いなさのおはま）に着い

て十握剣（とつかのつるぎ）を抜いて逆さに突き立て、武威を示されると
大国主神は大御神の御命令に全く異議はありませんということで、平国の
広矛（くにむけのひろほこ）を受け取り、二神は日本の国を平定して、大
御神の元へ復命されたのです。

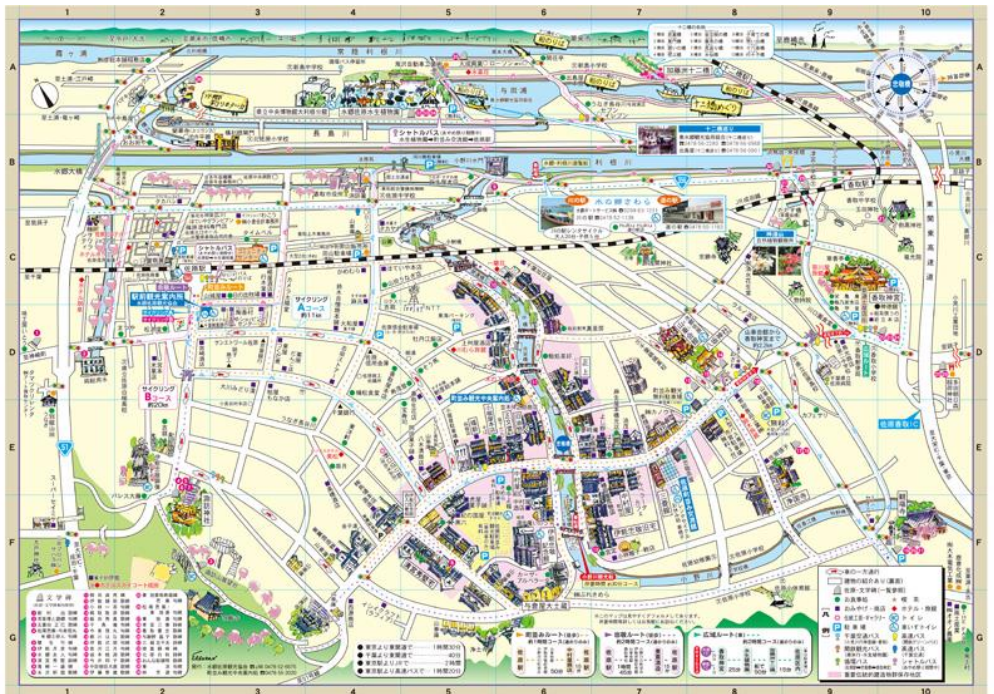
御神徳：古くから国家鎮護の神として皇室からの御崇敬が最も篤く。特
に『神宮』の御称号（明治以前には伊勢・香取・鹿島のみ）を以て奉祀さ
れており、中世以降は下総国の一宮、明治以後の社格制では官幣大社に列
し、昭和 17 年、勅祭社に治定され今日に至っています。

奈良の春日大社、宮城の鹽竈神社（しおがまじんじゃ）を始めとして、
香取大神を御祭神とする神社は全国各地に及んでいて、広く尊崇をあつめ
ています。

一般からは家内安全、産業（農業・商工業）指導の神、海上守護、心願
成就、縁結び、安産の神として深く信仰されています。さらに、その武徳
は平和・外交の祖神として、勝運、交通 安全、災難除けの神としても有名
です。

＜佐原の町並み＞ ホームページより

水運を利用して「江戸優り（えどまさり）」といわれるほど栄えていた佐
原。人々は、江戸の文化を取り入れ、更にそれを独自の文化に昇華してい
ました。その面影を残す町並みが小野川沿岸や香取街道に今でも残ってい
ます。



このような歴史景観をよく残し、またそれを活かしたまちづくりに取り組んでいることが認められ、平成8年12月、関東で初めて「重要伝統的建造物群保存地区」（重伝建）に選定されました。

佐原の「重伝建」は昔からの家業を引き継いで今も営業を続けている商家が多く、「生きている町並み」として評価されています。

伝統的建造物群保存地区伊能忠敬旧宅（寛政5年（1793）建築・国指定史跡）のほか県指定文化財も8件（13棟）が小野川沿いや香取街道沿いに軒をつらねています。

伊能忠敬旧宅（国指定史跡）

伊能忠敬が佐原で30年余りを過ごした母屋と店舗がそのまま残されている。

母屋は寛政5年（1793）忠敬自身が設計したものといわれている。

忠敬翁は18歳で伊能家の養子となり、醸酒業ならびに米穀薪炭販売に精励すると共に、村政の中心として活躍した。50歳で隠居をして、天文学や地理学を学び、大日本沿海輿地図を完成させたことで広く知られている。佐原が生んだ世界に誇る科学的地図を作成した偉人である。



<建築年代>

店舗・正門：不明、書院：寛政5年（1793年）
土蔵：文政4年（1821年）以前

三菱館（千葉県有形文化財）



旧三菱銀行佐原支店（香取市所有）

県内でも有数の洋風建築として知られ、イギリスより輸入したレンガを使った2階建ての洋館。内部は吹き抜けになっており、2階周囲に回廊がある。屋根は木骨銅板拭きで、正面建物隅にドームを設けている。

川崎銀行佐原支店（開業明治13年）として、清水建設の前身である清水組により建設され、本店（日本橋）と同時開業。

現在は市に寄贈されギャラリーとしても活用されている。

<建築年代> 大正3年（1914年）

福新呉服店（千葉県有形文化財）



文化元年（1804年）の創業、佐原で八代目の老舗。

前面と側面は土蔵造りの堂々とした間口で当時の隆盛が偲ばれる。店舗奥には、井戸のある中庭があり、文化財の土蔵やトイレなどを一般公開している。

佐原の商家の典型的なつくりで、映画、ドラマのロケ地として使われる。生活空間であるたたずまいそのものが生きている博物館として「佐原まちぐるみ博物館」の一号館となっている。昔の生活道具や衣装なども置かれ、自由に見学できる。

< 建築年代 >

店舗：明治28年（1895年）

土蔵：明治元年（1868年）

中村屋商店（千葉県有形文化財）



明治7年頃より代々荒物・雑貨・畳を商ってきた。正面の交差した道路に沿った変形の敷地であるため、母屋の角の柱を五角形断面にしている。

内部の架構に工夫をこらし、間取りも変形平面の部屋を設ける等、全体として一階に店舗と台所を、二階には座敷を設け、よくまとまった平面構成となっている。「まちぐるみ博物館」の一つとして、一枚の紙から作られた「連鶴」を展示している。

< 建築年代 >

店舗：安政2年（1855年）

土蔵：明治25年（1892年）以降

正文堂（千葉県有形文化財）



大黒柱は檜材、2階の窓は土塗の開き戸、さらに横引きの土戸に板戸と、三重に防火設備を伏した土蔵造りとなっている。

登り龍、下り龍を配した看板が特に目を引く。「正文堂」の文字は巖谷修の書(明治29年)である。重厚などっしりとした立派な建物である。

<建築年代> 明治13年(1880年)

正上（千葉県有形文化財）



- 江戸時代より醤油の醸造をしていた老舗。創業は寛政12年(1800年)5月。現在は10代目。戦後は佃煮の製造販売が主となった。

土蔵は明治初期の建築。江戸時代の店構が残る数少ない建築物であり、当時の戸締りの方法である「よろい戸」方式が残っている。店の奥には千本格子の障子戸が残り趣がある。

「まちぐるみ博物館」の一つとして、映画・ドラマの映像写真やデータが掲載されている。

<建築年代>

店舗：天保3年(1832年)

土蔵：明治元年(1868年)

小堀屋本店（千葉県有形文化財）



創業は天明2年(1782年)切妻平入瓦葺きの建物で、奥の土蔵には蕎麦作りの秘伝書や道具類が残っていた。建物は木造2階建てで、店舗、調理場、土蔵が一体となった明治時代の形式をそのまま残している。表のガラス戸は明治35年に旧佐原市で初めて使われたものであり、貴重な文化財である。

<建築年代>

店舗：明治25年(1892) 土蔵：明治23年

中村屋乾物店（千葉県有形文化財）



店舗は、明治25年（1892年）に佐原を襲った大火直後に建築されたもので、当時最高の技術を駆使した防火構造で、壁の厚さが1尺5寸（約45cm）にもなる建物。

間口は3間で、1階は畳敷と通り抜け土間のある店構え、2階は屋根裏を表した倉庫になっている。1階の正面は揚戸と土間の建て込み、2階は観音開きの土戸としている。小屋組み6段、出し桁化粧造りとなっている。

文庫蔵（総檜）は、店舗から1間程離れて建つ3階建ての建物で、1階と2階は明治18年（1885年）の建築、3階は店舗とともに明治25年（1892）の大火の前の形で再建されたもので、2室

（8畳間と6畳間）続きの座敷となっている。

限られた敷地の中に蔵造りの建物が建つため、居室に文庫蔵の3階をあてるなど居住空間の配慮に工夫が見られる。建築当初の様子がそのまま残っており、堂々としたたたずまいである。

<建築年代>

明治25年（1892年）

旧油惣商店（千葉県有形文化財）



創業は寛政6年（1794年）で、奈良漬けづくりを始めた。明治から昭和戦前までアメリカへ輸出。

旧店舗は、木造・寄棟妻入二階建・瓦葺で、間口三間半、奥行五間の大規模な総二階建である。

土蔵は切妻平入二階建・瓦葺で屋根裏を含めると三階建、棟札に「寛政十戊午歳九月

月立之大工 佐吉立之」とあり、佐原最古の土蔵の可能性が有る。大正5～6年に増築。

酒造業銘柄『菊華』。佐原で初めてキリンビールを販売する（大正年間）。

江戸、明治、大正、昭和 30 年までの建物、家財がそのまま維持されている。

< 建築年代 > 店舗：明治 33 年（1900 年） 土蔵：寛政 10 年（1798 年）

< 伊能忠敬記念館 >

ホームページより

郷土の偉人 伊能忠敬 は、今から 200 年前の江戸時代中期に、初めて実測による正確な日本地図を作製するという大事業を達成した人物です。

佐原の人々は、伊能忠敬（いのう ただたか）のことを、尊敬と親しみを込めて『いのう ちゅうけい』と呼びます。私も小さい頃は、『ちゅうけい』が正しい読み方だと信じていました。また、佐原小学校の校歌の中でも『ちゅうけい』と歌われていました。

その忠敬が、生涯学習時代や高齢化社会の今日、日本を代表する希望の星として注目を集めています。

平成 10 年 5 月 22 日（金曜日）に、忠敬の業績と生涯を展示した「伊能忠敬記念館」が開館しました。

【開館に至るまで】

忠敬は家業や村政に励むかたわら、好きな学問を学び続け、50 才から江戸に出て本格的に勉強に励み、55 才の老齢の身から 17 年間にわたり全国測量を行った、生涯学習の日本を代表する人物です。ロマンと情熱を持ち続け、生涯現役で生きた忠敬に、多くの人々が勇気づけられています。

また、初めて実測による正確な日本地図を完成した科学的業績は、世界的にも十分評価される内容のものです。記念館にはこの忠敬の人間像と業績が、余すことなく展示されています。

記念館の外観は、忠敬の時代背景と周囲の歴史ある町並みにマッチしたもので、町屋・土蔵造り風の建物となっています。

平成 8 年 12 月に佐原の町並みが、関東地方で初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されたことに合わせたデザインです。

以上

